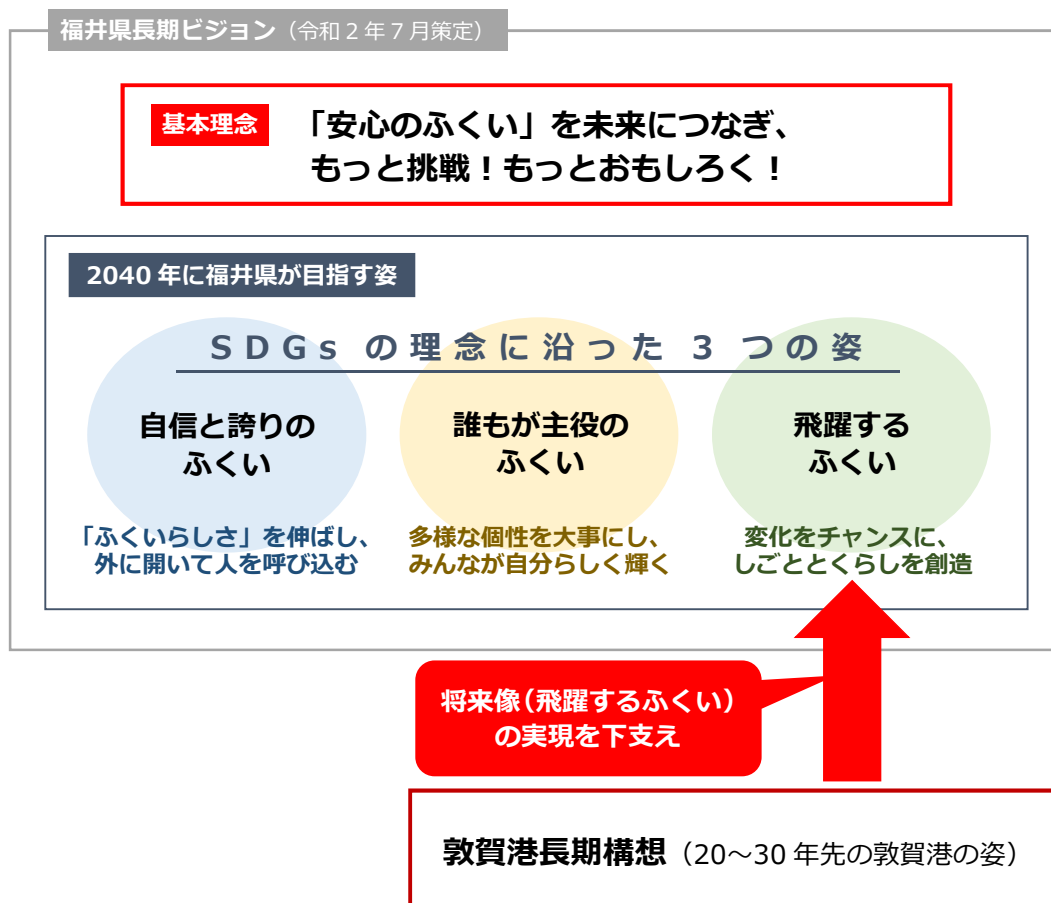


5. 上位・関連計画における敦賀港への要請

令和2年（2020年）7月に策定された「福井県長期ビジョン」は、『「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！』を基本理念に、SDGsの理念に沿った3つの姿「自信と誇りのふくい」、「誰もが主役のふくい」、「飛躍するふくい」を目指すものである。

「飛躍するふくい」の実現に向けて敦賀港では、物流の効率化に向けた世界最先端のスマート港湾への進化や企業BCPも見据えた災害時の太平洋側港湾のバックアップ機能の確保、拡大する世界市場を福井の成長につなげるための環日本海・アジアを結ぶ物流ネットワークの構築、嶺南のインバウンドリゾートエリア構築に向けた「人道の港」整備等を目指すこととしている。

本長期構想は、「福井県長期ビジョン」の目指す将来像の実現に向けて、敦賀港の目指すべき方向性を様々な観点から整理し、提示するものである。

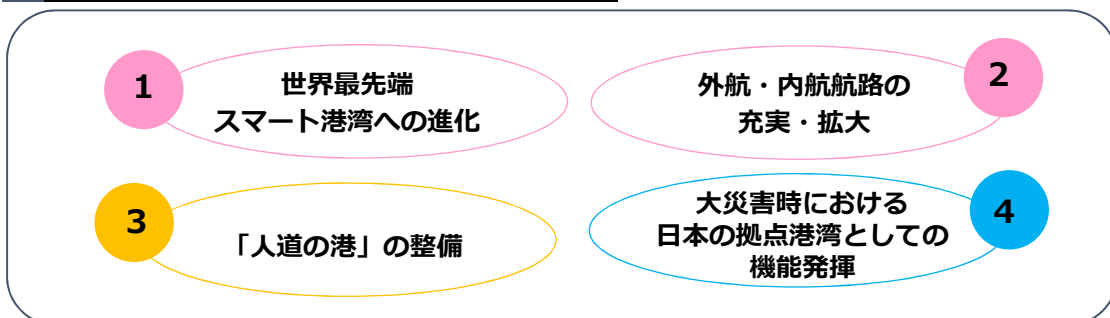


なお、福井県長期ビジョンでは福井県の目指すべき将来像（将来構想）、今後5年間に実行する政策（実行プラン）、県内4地域における政策の方向性（地域プラン）をとりまとめている。福井県長期ビジョンにおける敦賀港の位置付けを整理すると次頁に示すとおりである。

表 福井県長期ビジョンにおける敦賀港の位置付け

構成	内容
<p>将来構想</p> <p>福井県の目指すべき将来像を展望 (目標年次 2040年)</p>	<p><u>将来イメージ</u> ■(基盤分野)国土強化の新ネットワーク ・敦賀港が世界最高水準のスマート港湾に進化し、関西・中京からのアジアへの物流を最速化。環日本海諸国への外貿航路や国内各地への内貿航路が拡大し、日本の一大物流拠点となっている。</p> <p><u>2040年に向けた長期プロジェクト</u> ■県境フロンティアプロジェクト ○アジアへ最速「敦賀港」 ・敦賀港を先端技術の導入による世界最高水準の高効率・高利便性を誇る「世界最先端スマート港湾」へ進化。 ・環日本海諸国との外貿や国内各地への内貿航路の充実・拡大。 ・南海トラフ等の大災害時には日本の拠点港湾として機能発揮。 ○新幹線で東京・大阪に直結 ・福井・敦賀開業および新大阪までの「早期全線開業」の実現 ・新幹線5駅を中心としたまちづくりとMaaSなど2次交通の整備 ○中京・関西につながる大動脈 ・中部縦貫自動車道の「早期県内開通」 ・舞鶴若狭自動車道の「早期4車線化」 ・高規格道路へのアクセス道路や産業団地、道の駅等の整備 ■千年文化の継承発展プロジェクト ○オンリーワンを伸ばす ・敦賀を拠点に、欧亚国際列車や「命のビザ」など世界を体感する「人道の港」整備</p> <p><u>地域別の将来像</u> ■嶺南地域 ・新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア。</p>
<p>実行プラン</p> <p>今後5年間に実行する政策を分野別に具体化 (計画期間 2020～2024年度)</p>	<p><u>施策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ</u> ■港を活かした貿易拡大 ・日本海側の中心にある地理的優位性を最大限活かし、新規航路の開拓による環日本海・アジアを結ぶ物流ネットワークの構築や、災害時の危機管理に対応するための利用促進などを進め、敦賀港・福井港を活かした貿易を拡大する。</p> <p><u>施策9 100年に一度のまちづくり</u> ■港湾機能の強化による物流・人流の活性化 ・敦賀港については、鞠山南国際物流ターミナルを拡張し、港湾機能を強化するほか、次世代型高規格ユニットロードターミナル化、新規航路の開拓や海外クルーズ客船の誘致を進める。</p> <p><u>施策18 広域パートナーシップの強化</u> ■港湾の利活用 ・近隣府県と連携し、大規模災害発生時の海上ルートの確保というBCPの観点から関西・中京圏企業の利用拡大を図り、敦賀港の物流拡大を図る。また、海外クルーズ船社に対する広域観光ルートの提案を強化し、海外クルーズ客船をさらに誘致する。</p>
<p>地域プラン</p> <p>県内4地域における政策の方向性を整理 (計画期間 2020～2024年度)</p>	<p><u>嶺南地域</u> ■将来イメージ ・新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア。 ■施策の方向性 ・増大する貨物需要に対応する敦賀港鞠山南地区の整備(国・県) ・岸壁や護岸等、港湾施設の長寿命化と耐震化を推進(国・県) ・敦賀港を利用する荷主、物流事業者に対する支援(県) ・敦賀港に新たに定期航路を開設する運航船社に対する助成(県)</p>

■ 将来像（2040年目標）からの敦賀港への期待



参考として、我が国および北陸地域、福井県、敦賀市の関連計画（地域計画、港湾関連計画）を整理すると以下に示すとおりである。

参考表（1） 上位計画・関連計画とりまとめ一覧表（地域計画）

地域計画	国	国土強靱化基本計画 ＜平成26年(2014年)6月＞	【理念】 ●国土強靱化の基本目標 ①人命の保護 ②国家・社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持される ③国民の財産及び公共施設に係る被害の最小化 ④迅速な復旧復興 ●災害時でも機能不全に陥らない経済社会システムを平時から確保し、国の経済成長の一翼を担う
		北陸圏広域地方計画 ＜平成28(2016年)年3月＞	【北陸圏の将来像】 ●暮らしやすさに磨きをかけ更に輝く新・北陸 ●三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海・太平洋2面活用型国土形成を牽引する新・北陸 【将来像実現に向けた目標】 目標1 個性ある北陸圏の創生 目標2 競争力のある産業の育成 目標3 日本海側の中枢圏域の形成 目標4 対流・交流人口の創出
			【広域連携プロジェクト】 1 豊かな暮らしを育む連接型都市圏形成プロジェクト 2 いきいきふるさと・農山漁村活性化プロジェクト 3 防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化プロジェクト 4 北陸の多彩な自然環境保全プロジェクト 5 北陸発エネルギー技術・環境技術拠点形成プロジェクト 6 東アジアに展開する日本海中枢圏域形成プロジェクト 7 食料供給力増強・食の北陸ブランド展開プロジェクト 8 強靱な国土づくりに貢献する広域的な防災体制の構築プロジェクト 9 高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成プロジェクト
	県	福井県長期ビジョン ＜令和2年(2020年)7月＞	【基本理念】 「安心の福井」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっと面白く！ 【目指す姿】 ●自信と誇りの福井 「福井らしさ」を大切に。県民が誇りをもって暮らすことにより、さらに多くの人を呼び込む福井 ●誰もが主役の福井 すべての人が輝き、互いに支え合い、幸せを実感しながら、将来にわたり安心して暮らせる福井 ●飛躍する福井 交通体系の進展や技術革新を活かして、産業の新たな可能性を拓く。創造的で活力がある福井
		ふくい観光ビジョン ＜令和2年(2020年)3月＞	【基本理念】 観光でこころひとつに、活力ある地域の創造 ～ふくいブームの創出からムーブメント、文化へ～ 【戦略の体系】 ●基本戦略1 観光で「稼ぐ」 観光客の心をつかむ、観光地域づくりをすすめる ●基本戦略2 観光で「ブームを起こす」 ブランド力を高める、心惹かれる情報を届ける ●基本戦略3 観光で「世界を魅了する」 インバウンド目線で攻める ●基本戦略4 観光で「心を満たす」 すべての人にやさしい環境を整える
	市	敦賀市再興プラン (第6次敦賀市総合計画後期基本計画) ＜平成29年(2017年)2月＞	【基本方針】 市民とともに進める 魅力と活力あふれる港まち敦賀の再興
			【5つの再興戦略】 ①北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくり ②地域経済の活性化 ③人口減少対策の推進 ④広域のかつ一体的な経済圏・生活圏の構築 ⑤行財政改革ー人口減少社会に対応した行財政への転換ー
		敦賀市観光振興計画 2013→2022 ＜平成25年(2013年)3月＞	【基本理念】 ●港と鉄道を本市の象徴として位置付け、これらを核とした観光の【まちづくり】を目指す ●敦賀に関わる全ての人々が、感謝の気持ちでおもてなしできるような【ひとづくり】を目指す
			【基本方針】 ・多様な観光資源の活用と保全 ・ホスピタリティの充実 ・マーケティング戦略の推進 ・観光振興の推進体制の強化
	敦賀市都市計画マスタープラン (改訂版) ＜平成21年(2009年)7月＞	【将来都市像】 歴史と文化と交流の港まち つるが 【まちづくりの3つのキーワード】 「港」、「中心市街地」、「駅」	
		【都市づくりの目標】 ・躍動する交流都市 ・活力みなぎる産業都市 ・魅力あふれる快適都市 ・自然にやさしい環境共生都市	

参考表(2) 上位計画・関連計画とりまとめ一覧表(港湾関連計画)

港湾関連計画	国	<p>港湾の中長期政策 『PORT 2030』 <平成30年(2018年)7月></p>	<p>【中長期政策の方向性】</p> <p>①グローバルバリューチェーンを支える海上輸送網の構築 ②持続可能で新たな価値を創造する国内物流体系の構築 ③列島のクルーズアイランド化</p>	<p>④ブランド価値を生む空間形成 ⑤新たな資源エネルギーの受入・供給等の拠点形成 ⑥港湾・物流活動のグリーン化 ⑦情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化 ⑧港湾建設・維持管理技術の変革と海外展開</p>
		<p>港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針 <令和元年(2019年)6月></p>	<p>【特に戦略的に取り組む事項】</p> <p>(1)我が国の産業と国民生活を支える海上輸送網の構築と物流空間の形成 ①グローバルバリューチェーンを支える国際海上輸送網の構築と物流機能の強化 ②資源・エネルギー・食糧の安定確保を支える国際海上輸送網の構築 ③将来にわたり国内物流を安定的に支える国内複合一貫輸送網の構築 ④我が国及び地域の基幹産業・地場産業を支える物流機能の強化と港湾空間の形成</p>	<p>(2)観光立国と社会の持続的発展を支える港湾機能の強化と港湾空間の利活用 ①観光を我が国の経済成長につなげるクルーズの振興 ②観光振興及び賑わい創出に資する港湾空間の利活用 ③再生可能エネルギーの利用及び低炭素化に資する港湾空間の利活用の推進 (3)国民の安全・安心を支える港湾機能・海上輸送機能の確保 ①災害から国民の生命・財産を守り、社会経済活動を維持する港湾・輸送体系の構築 ②船舶航行及び港湾活動の安全性の確保</p>
		<p>北陸港湾ビジョン <令和3年(2021年)3月></p>	<p>【北陸港湾の目指すべき姿】</p> <p>・北陸港湾の発展により、東南アジアや欧州等を見据えたより広域的な物流展開や、賑わい拠点における国内外の幅広い交流人口を創出するとともに、日本海側と太平洋側の連携強化によるネットワークの多重性・代替性の確保等を実現</p> <p>【物流】</p> <p>①グローバルサプライチェーンを支える海上輸送網の構築 ②持続可能で新たな価値を創造する高度な国内物流体系の構築</p> <p>【産業】</p> <p>③日本海側の資源エネルギー受入・供給等の拠点形成・機能強化 ④港湾・物流活動のグリーン化による地球環境への負荷の軽減と環境の改善</p>	<p>【防災】</p> <p>⑤ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策の確立 ⑥太平洋側での災害発生時の広域的なバックアップ体制の確保</p> <p>【維持管理】</p> <p>⑦港湾建設・維持管理技術の変革等によるスマートインフラの実現</p> <p>【観光】</p> <p>⑧地域資源を活かし多様なニーズに対応したクルーズ振興の促進 ⑨地域と連携した交流拠点の形成による“楽しいみなど”づくり</p>
	県	<p>日本海側拠点港の形成に向けた計画書 【国際フェリー・国際RORO船】 <平成23年(2011年)11月選定></p>	<p>【目的と2025年の姿】</p> <p>敦賀港の国際フェリー・国際RORO船の航路を充実することにより、関西・中京を背後圏に持つ敦賀港を拠点とした日本海側物流ネットワークの効率化を図る。</p> <p>【目標航路数と取扱貨物量】</p> <p>2025年までに釜山航路週6便、東海航路週1便、大連航路週2便合計週9便を実現することにより、敦賀港の対象貨物20.2万TEUのうち13.7万TEUの取扱いを目指す。</p> <p>【港湾整備の基本方針】</p> <p>既存施設の有効利用を図りながら、最小限の整備を行うことにより、効率的に港湾機能を充実させ、計画実現を目指す。</p>	